

設計・開発

調達

生産

包装・輸送

使用

廃棄/リサイクル

使い捨て包装材の使用量削減

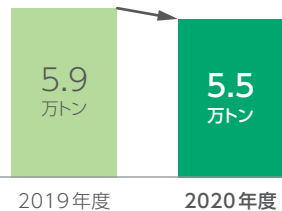
三菱電機グループ(国内)の2020年度の成果

三菱電機グループでは、「Just in Time 改善活動」の一環として、物流業務の改善を推進しています。その中で「お客様に製品を無事に届ける『輸送包装』の減量化」を基本方針としています。この考え方に基いて、包装材の3R、すなわち、簡易包装化の推進(リデュース)、リターナブル容器・包装の適用拡大(リユース)、使用済み包装材の再資源化(リサイクル)を進めています。

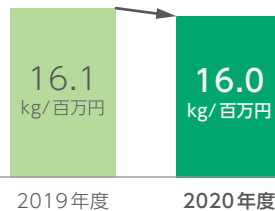
三菱電機グループ(国内)については、簡易包装化の推進、リターナブル容器・包装の適用拡大により、包装材使用量は5.5万トン(前年度比0.47万トン減)、売上高原単位は16.0kg/百万円(前年度比0.6%減)となりました。

海外関係会社については、22社合計で、包装材使用量は5.8万トン、売上高原単位は71kg/百万円(前年度比19%減)でした。

包装材使用量(三菱電機グループ(国内))



包装材使用量売上高原単位(三菱電機グループ(国内))



→包装材使用量の実績はP.34「マテリアルバランス」を参照ください。

物流でのCO₂排出量削減

製品(販売)物流における基本方針

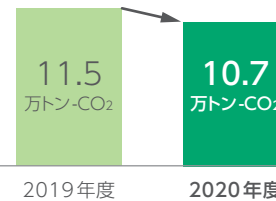
三菱電機グループでは、「Just in Time 改善活動」の一環として、物流業務の改善を推進しています。この活動は、物流業務の定量評価によって物流を「見える化」し、ムリ、ムラ、ムダをなくすもので、輸送効率、経済性の改善と、環境負荷も少ない物流「Economy & Ecology Logistics」(エコ・ロジス)の実現を目指しています。

三菱電機グループ(国内)の2020年度の成果

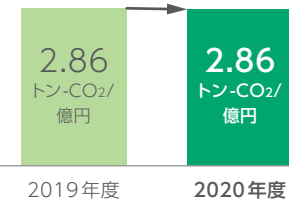
三菱電機グループ(国内)については、2020年度も次のような施策を前年度から継続して実践した結果、CO₂排出量は10.7万トン-CO₂、売上高原単位は2.86トン-CO₂/億円となりました。

- 輸送ルート見直し
- トラック輸送から鉄道輸送への切り替え(モーダルシフト)
- 積載率向上によるトラック台数削減(コンテナラウンドユースを含む)

物流でのCO₂排出量
(三菱電機グループ(国内))



物流でのCO₂排出量売上高原単位
(三菱電機グループ(国内))



※ 集計方法見直しにより、数値変更。

海外関係会社については、21社の合計で、CO₂排出量は27.8万トン、売上高原単位は35.8トン-CO₂/億円でした。

→物流でのCO₂排出量及び売上高原単位の実績はP.35「マテリアルバランス」を参照ください。